

第9回全国シネ撮影技術研究会 一般演題発表

〔一般会員研究〕

テーマ 1 ; 手技を安全かつ迅速に行う為の

システムまたは付属機器の創意・工夫、改善

①心カテ検査のスループット向上の検討

福島県立会津総合病院 中央放射線部 渡部 仁

1. 目的

福島県内の施設における心カテ検査の状況の調査と問題点の把握をするために調査を行った。

2. 方法

福島県内の15施設に対して心カテ検査に対する対応及び工夫等についてアンケートを実施した。

3. アンケートの内容

アンケートの回収率は100%で、15施設すべてから協力を得ることができた。

- 患者さんに被検者衣を使用するか否か
3施設で被検者衣を使用していた。
- ディスポ製品の使用状況（アンギオシート、心カテバック等）
9施設でセットになったものを使用していた。
- 連活栓キットなどの使用状況
セットになったものを7施設で使用していた。
- ルーチン診断カテにおける（術前）（術中）（術後）に於ける工夫等

（術前）

術前訪問により、検査の説明、患者情報の把握
器材の準備

予め複数のワゴンに、検査内容に応じてセット
化して一括準備

ディスポ製品のオーダー化、バック化、キット
化

次の患者さんは予め前室待機、予め心電図電極
を付ける

（術中）

バイタルサインの注意、急変時の対応

（術後）

止血器具の使用

止血はカテ寝台または別室

（その他）

心カテスタッフのチーム化

装置の定期点検、始業点検、安全確認

被検者衣の使用

ディスポ製品の一括バック、オーダー

連活栓等の器材をキット化してオーダー

- 入室から右心、左心カテ、退室までの経過時間
と透視時間

心カテ検査数は1週間で平均2.7日、1日平均
3件で、多い施設は8~10件であった。

心カテ検査時間は、患者入室から退室まで平均
約50分であった。内訳は、右心カテ終了まで
25分、左心カテ終了まで45分であった。また、
透視時間は、平均10分であった。

- 終了時の止血場所

止血の場所は各施設様々であったが、1日の
検査数が比較的少ない施設はそのまま心カテ室
で行い、検査数の多い施設は別室で行っていた。

4. まとめ

- 安全性に対する工夫よりも、迅速性に対する工夫に関する回答が多かった。
- 術前では、患者さんごとの検査内容の把握と、前準備の徹底および簡素化
- 術中では、患者さんのバイタルサイン等に対する注意
- 術後では、止血を別室で行い、カテ室を開放し速やかに次の検査に入る準備をする。

5. 考察

- 今回の調査では、安全性に対する工夫よりも、

迅速性に対する工夫に関する回答が多かった。

・圧迫止血の患者さんの観察に対する問題

これは、カテ寝台上での止血については、12誘導心電図、血圧計等による観察が可能であり、また、急変時の対応、薬品、除細動などの対応ができるが、別室、病棟においての止血は、施設にもよるが、どの程度のモニタリングで患者さんを観察しているのか、看護婦が医師と共にいるのか、急変時の対応などの程度とられてい

るのか問題が残った。

・患者さんの術衣の問題

術衣を使用している施設は3施設あったが、カテ寝台上で全裸になり消毒を受けるのと、病棟で着替え、前ばり等の処置を受け患部のみの露出での消毒では患者さんの検査を受ける精神面もちがうのではないか。

- ・心カテ検査の増加と急患の迅速対応の面からも安全かつ迅速な工夫は今後も検討が必要である。